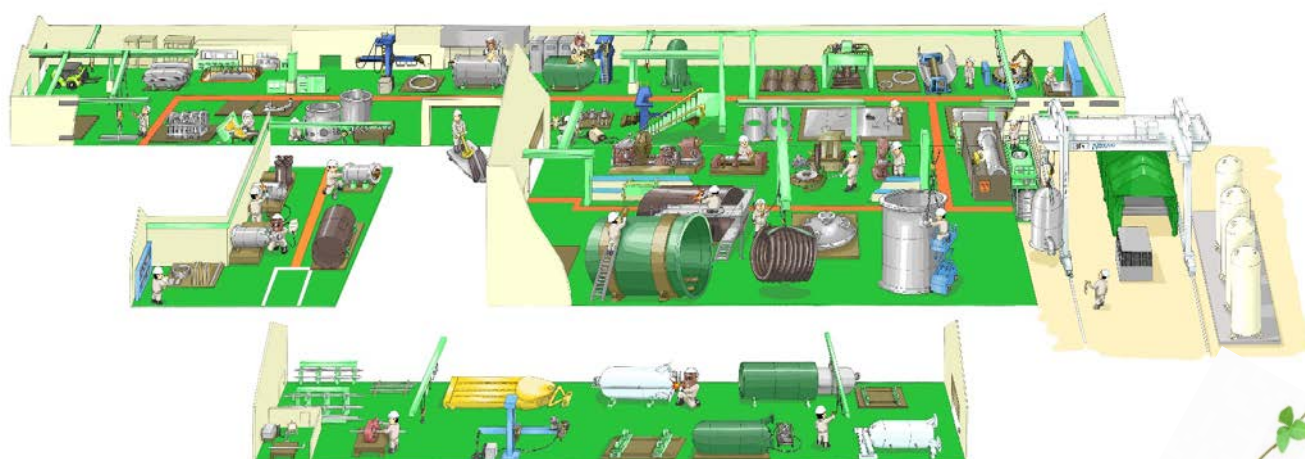


2021年度

環境経営レポート

2021年 5月 1日～2022年 4月30日



FOR THE BEAUTY OF THE EARTH
FOR A DYNAMIC AND ATTRACTIVE SOCIETY



エコアクション21
認定番号0002822

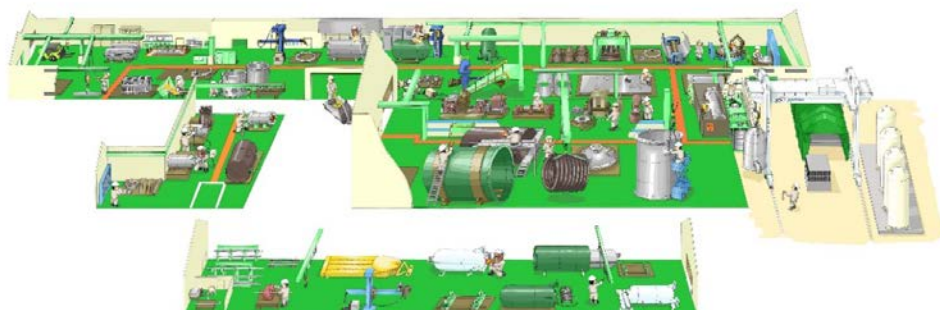


日本化学機械製造株式会社

発行 2022年 6月24日 (環境月間)

目次

	ページ
目次	1
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業概要・製品における環境配慮の促進	4
環境活動とSDGs 	5 , 6
1. 主な環境負荷の実績	7 , 8 , 9
2. 環境経営目標及びその実績	10
3. 環境経営活動の結果と評価、次年度の取組み	11 , 12 , 13 , 14
4. 活動事例 トピックス	15
5. 環境関連法規制等の順守状況	
6. 代表者の見直し	16



表紙イラスト：当社社員による工場紹介

クレーンを操作する人、溶接をする人、ものづくりの現場で働く人々の様子が描かれています。

環境経営方針

私たち一人ひとは、社是に徹し当社の基本理念である
美しい地球 生き活きとした社会のために
経営方針の下、ここに環境方針を定め、行動することを宣言します。

社是 『誠心誠意』 『感謝の奉仕』

基本理念

*For the beauty of the earth
For a dynamic and attractive society*

美しい地球 生き活きとした社会
それらが調和し持続し発展するために
役立つ 技術 と 人材 を提供します



環境経営方針

全ての人々が健康に生き活きと生きる事ができる社会は、豊かな自然と健全な環境の上に成り立っています。

地球環境が保全され、限り有る資源と多様性に富む生物を将来に引き継いでいける持続可能な社会を構築するために、環境について考え、行動することは、21世紀を生きる人類のそして経済社会を営む企業の責務であると強く認識します。

私たち日本化学機械製造株式会社は、事業活動における環境負荷の低減を図り、持続可能な開発目標の達成に貢献していくために、次の行動指針に定める環境保全活動を推進します。

〈環境保全への行動指針〉

1. 以下について、環境目標・活動計画を定めて、継続的な改善に努めます。
 - (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量削減
 - (2) 節水推進
 - (3) 廃棄物排出抑制、リサイクルと適正処理の推進
 - (4) 環境に有害な化学物質使用量の削減と管理の推進
 - (5) 製品における環境配慮の促進
 - (6) グリーン購入の促進
2. 環境関連法規や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを活動レポートとして公表します。

制定日 2007年 12月10日
改定日 2019年 7月 1日
見直日 2021年 5月 1日
日本化学機械製造株式会社
代表取締役社長

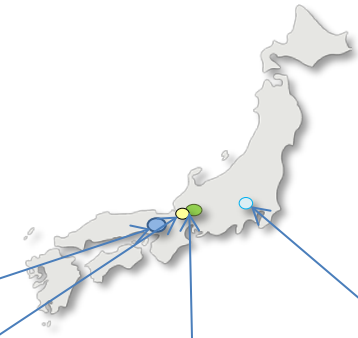
高橋 一 雅

組織の概要

事業者名

日本化学機械製造株式会社

代表取締役社長 高橋 一雅
 環境統括管理責任者 執行役員 井上 雄二
 環境事務局(全社) 社長室 中嶋 幹恵
 技術部 海瀬 卓也
 製造部 福本 学
 製造部 新井 裕史
 南山田工場環境事務局 製造部 奥野 守



サイトの概要

サイト
環境管理責任者
TEL
従業員数
敷地面積
工場床面積
事務所等床面積

本社・工場
執行役員 井上 雄二
06-6308-3881
168名
18,281㎡
6,478㎡
2,294㎡

滋賀工場
執行役員 井上 雄二
0748-75-2131
0名 ^{*1}
27,229㎡
5,024㎡
0㎡
移転中

南山田工場
工場統括 中村 康弘
0748-72-3007
22名
3,727㎡
1,901㎡
214㎡

東京支店
支店長 神尾 昌人
03-3567-8101
5名
貸貸事務所

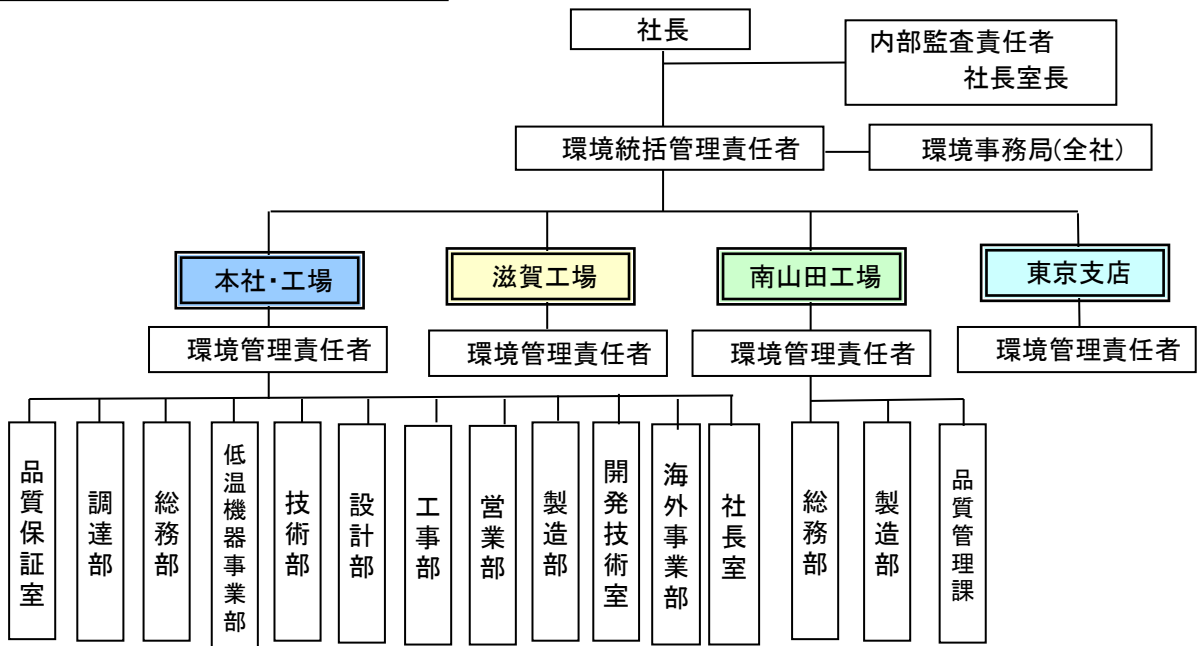
*1:P.13の3.3-4滋賀工場の項で報告します。

組織所在地

本社・工場 大阪府大阪市淀川区加島4丁目6番23号
 滋賀工場 滋賀県湖南市大池町7番地1
 南山田工場 滋賀県湖南市岩根字南山田1622番5
 東京支店 東京都中央区京橋1丁目6番12号 (京橋イーサビル5階)

エコアクション21認証・登録番号：0002822
 適用ガイドライン：エコアクション21ガイドライン2017年版
 対象事業所：本社・工場、東京支店、滋賀工場、南山田工場 (全組織)
 事業内容：化学機械・化学装置・燃焼装置・超低温液化ガス機器の設計・製作・販売
 更新・登録日：2020年8月25日
 活動期間：2021年5月～2022年4月

環境経営システム組織



事業概要

当社はアルコール蒸留装置の設計・製作を創業の原点として80年に亘り操業を続けており、その間、化学・食品・医薬工業界様向けにも、広く化学機械や化学プラントをご提供しています。最近では、培った設計・製造技術と豊富な経験を駆使して、バイオエタノール製造プラントや太陽光発電に供される原料製造プラントの建設などにも携わりました。

また、当社独自の蒸留技術を活かした廃溶剤回収プラント、環境負荷物質の回収装置、脱臭設備等もご下命頂いており、これらの製品を通じて社会の環境改善にも貢献しております。

事業の規模 および 2021年度事業活動実績

- 1)創業 1939年
- 2)資本金 1億円
- 3)売上高の推移

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
52.9億円	61.1億円	40.2億円	50.7億円	48.3億円



廃溶剤回収装置



アンモニア処理システム

製品における環境配慮の促進

プラントは様々な装置、工作物、その他機器類の組み合わせで構成されており、エンジニアリングには多くの知識と経験が必要とされます。設計時においては設備の省エネルギー化、騒音や振動に留意した機器の選定など、また、工事、試運転、メンテナンスにおいては火災事故や化学物質の漏えい等の防止といった観点でも、環境に配慮すべき事項は非常に多岐にわたります。生産性向上も資源の有効活用といえます。

私たちは、常に最新の技術の開発、活用に努めています。

環境に資する製品のご紹介 【環境活動レポートバックナンバー】

- 2008年度 バイオエタノール実証プラント
印刷工場から排出される有機溶剤の回収、精製技術
- 2012年度 ヒートポンプによる省エネ
製品の梱包材をリサイクル可能なものに替える取組み
- 2013年度 燃焼装置の燃料転換

持続可能な社会のために



日本化学機械製造株式会社 SDGs宣言

私たちのミッション（使命）、パーパス（社会的存在意義）は
ソリューション・クリエーター つまり、問題を発掘・解決し
社会の発展に寄与することです。

当社の基本理念 『美しい地球 生き活きとした社会
それらが調和し持続し発展するために』のもと、
国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、事業を通じた
社会課題の解決と、国際社会共通の目標であるSDGsの達成に貢献します。

2021年5月23日
日本化学機械製造株式会社
取締役社長 高橋 一雅

事業（製品・サービス）を通じての課題解決、貢献

環境改善・配慮機器の開発、製造、販売

- ・省エネ・省資源
- ・脱炭素社会
- ・廃棄物の削減
- ・ソリューションの提供



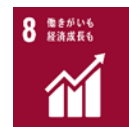
経営基盤構築、企業活動全体での貢献

調和と持続

- ・コンプライアンス
- ・防災・BCP
- ・CSR調達

役立つ技術と人材の提供

- ・安全と健康
- ・人材育成
- ・はたらきがい・ライフバランス



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs（持続可能な開発目標）とは、
2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

環境活動とSDGs



	環境の取り組み		事業・製品を通しての貢献
			環境保全、配慮型製品の開発・製造・提供
People	1	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動への取り組み BCPの構築-災害への備え 	<ul style="list-style-type: none"> CO2回収設備関連
	2		<ul style="list-style-type: none"> 食品プラントで生産効率向上
	3	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質使用量の削減と管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品関連製造設備 製品安全
	4	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育 	
	5		
	6	<ul style="list-style-type: none"> 節水 産業廃棄物の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 溶剤回収装置
Prosperity 豊かさ	7	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量削減 環境保全、配慮型製品の開発・製造・提供 太陽光発電設置(社内) 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料転換技術 LNG関連機器 水素技術 太陽光パネル・二次電池関連設備
	8		
	9	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全型製品 環境配慮型製品 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全型製品 環境配慮型製品
	10		
	11	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量削減 環境教育・地域環境保全 エコカーの導入(社内) 防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス対応製品生産プラント 触媒式脱臭装置
Planet	12	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全、配慮型製品の開発・製造・提供 廃棄物の削減 グリーン調達 防災訓練 	
	13	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量削減 環境保全型製品 産業廃棄物の削減 	
	14	<ul style="list-style-type: none"> 節水 産業廃棄物の削減 化学物質使用量の削減と管理の徹底 防災訓練(漏洩防止) 	<ul style="list-style-type: none"> 溶剤回収装置 (河川・海洋汚染防止)
	15	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の削減 構内緑化-生物多様性 	
Peace	16	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育 	
Partner -ship	17	<ul style="list-style-type: none"> 津波避難ビル登録・グリーン調達 環境教育 地域環境保全 地域清掃・地域防災 	

* 空欄の項目に関しましては、会社の基盤として、CSRの取り組みとしての活動があります。

1. 主な環境負荷の実績

2021年5月 ~2022年4月

1-1. 環境負荷の実績と各サイトの負荷割合

当社環境負荷の実績及び総排出量に対する各サイトの環境負荷別排出割合を、【表-1-1-1】に示します。

【表-1-1-1】各サイトにおける環境負荷の実績

環境負荷項目	単位	全社	本社・工場	南山田工場	滋賀工場 ^{※1}	東京支店 ^{※2}
CO ₂ 排出量 ^{※3}	ton	435.2	272.4	145.9	13.9	3.1
	%		62.6%	33.5%	3.2%	0.7%
一般廃棄物排出量	ton	1.1	0.68	0.39	0	0.04
	%		61.6%	34.8%	0.0%	3.6%
産業廃棄物排出量	ton	54.3	50.6	3.7	0	0
	%		93.2%	6.8%	0.0%	0.0%
総排水量	m ³	13,245	11,868	754	623	
	%		89.6%	5.7%	4.7%	

※1 滋賀工場としては、従業員数0であるが、南山田工場従業員が作業を兼ねて管理を行っており、詳細は、P.13の3.3-4滋賀工場の項で報告する。

※2 東京支店は、賃貸事務所の制約から水使用量は把握できない。

※3 CO₂排出係数：各サイトとも 0.000378 t-CO₂/kWh：環境活動取り組み開始時期の全国統一値

1-2. 主な環境負荷の推移

当社の全サイトにおける主な環境負荷の実績及び総排出量の推移を、【図-1-2-1】～【図-1-2-4】に示します。本社・工場は2008年1月より、全社としては、2010年1月から環境活動に取り組んでいます。

2019～2021年度は、感染症による緊急事態宣言での出社制限などの影響を含んでいます。

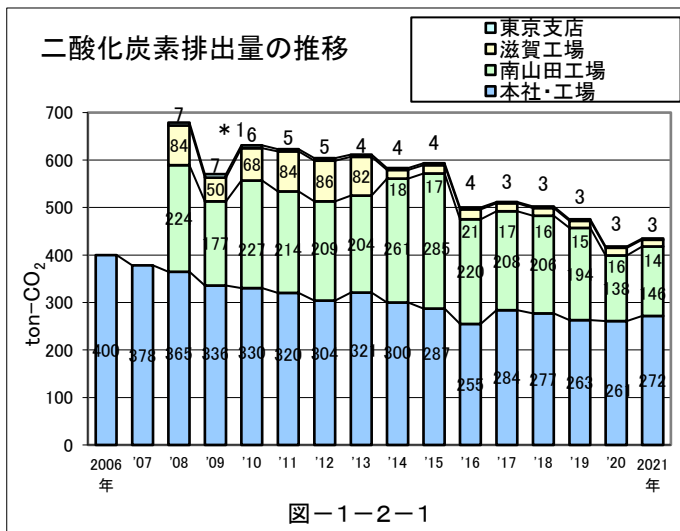


図-1-2-1

*1:2009年度は、南山田工場における生産量が少なかった。
 ・2012年以前の滋賀工場は、約10%程度当社以外の負荷を含む。
 ・2014年以降、滋賀工場での南山田工場使用負荷を振り分けた。

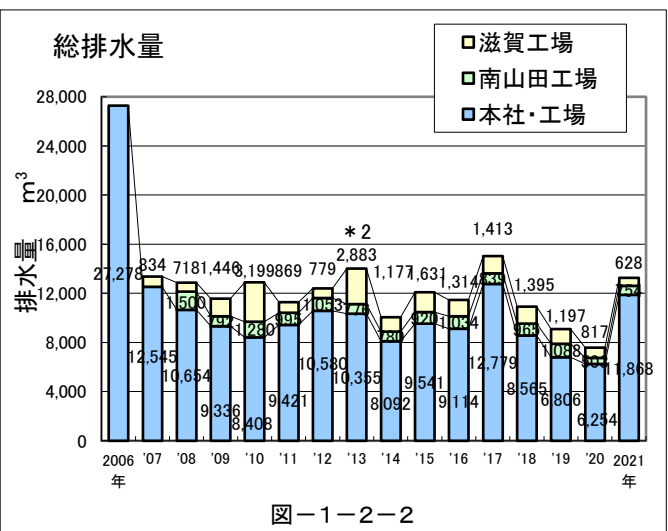


図-1-2-2

*2:滋賀工場の工水配管にトラブルがあり漏えい発生。原因究明、是正済み。
 ・東京支店は、賃貸事務所で水使用量は把握できない。

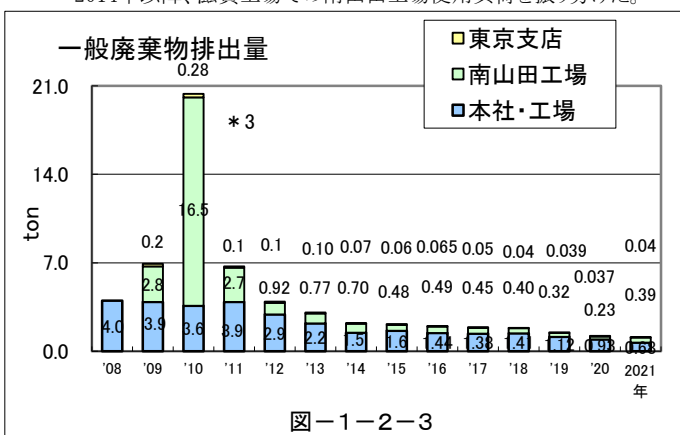


図-1-2-3

*3:EA21取組みに際し、一斉3Sを実施し遊休品等を一括処分したため急増した。

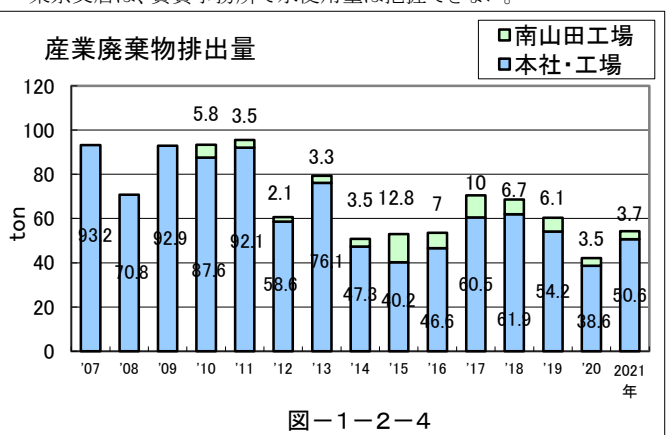


図-1-2-4

1. 主な環境負荷の実績

1-3. 各環境負荷の内訳

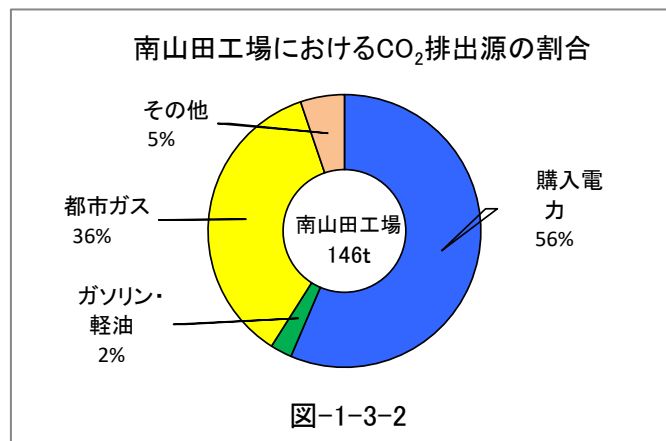
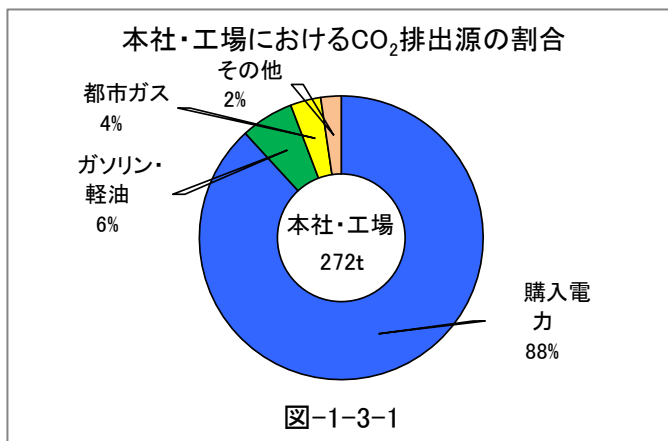
(1) 二酸化炭素排出量

各サイトにおけるCO₂の主な排出源を、【表-1-3-1】に示します。
 また、当社の二酸化炭素総排出量の63%を占める本社・工場と、34%を占める南山田工場における排出源の割合を、【図-1-3-1】及び【図-1-3-2】に示します。
 本社・工場では、88%が購入電力、6%が自動車燃料であるガソリン・軽油による排出です。
 南山田工場では、超低温液化ガス容器の製作過程で都市ガスを熱源とする乾燥炉を使用しているため、都市ガスによる排出が約35%と多くなっています。

【表-1-3-1】 [単位:ton]

CO ₂ 排出源	全社	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京支店
購入電力 ※1	339	240	82	14	3
ガソリン・軽油	20	16	4	0	0
都市ガス	62	9	52	0	0
その他	14	6	8	0	0
合計	435	272	146	14	3

※1 CO₂排出係数: 各サイトとも 0.000378 t-CO₂/kWh : 環境活動取り組み開始時期の全国統一値
 CO₂排出係数: 0.00035t-CO₂/kWh(関西電力 2020年度 調整後)で算出すると購入電力からのCO₂排出量は、全社で 314ton、全排出源からの全社合計は 410tonとなる。



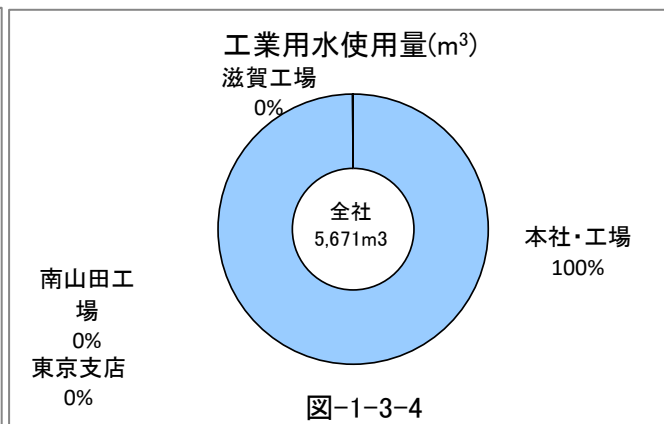
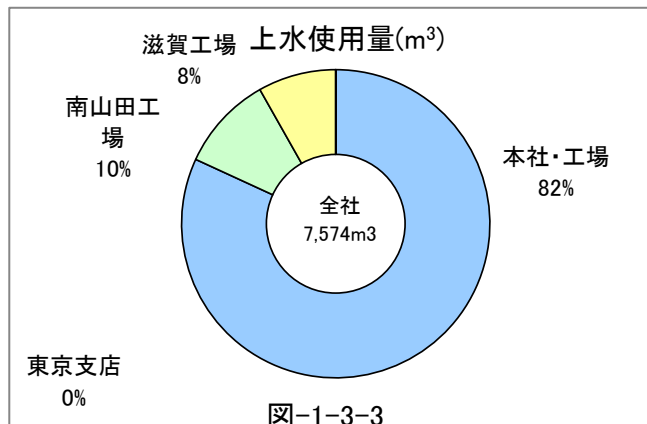
(2) 総排水量

各サイトにおける排水区分ごとの実績を、【表-1-3-2】に示します。
 また、総排水量に対する各サイトの排水割合を、【図-1-3-3】及び【図-1-3-4】に示します。
 なお、当社の場合、使用量を排水量としています。

【表-1-3-2】 [単位:m³]

排水の区分	全社	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京支店
上水	7,574	6,200	754	620	0
工業用水	5,671	5,668	0	3	0
合計	13,245	11,868	754	623	0

※ 東京支店は、賃貸事務所で水使用量は把握できない。



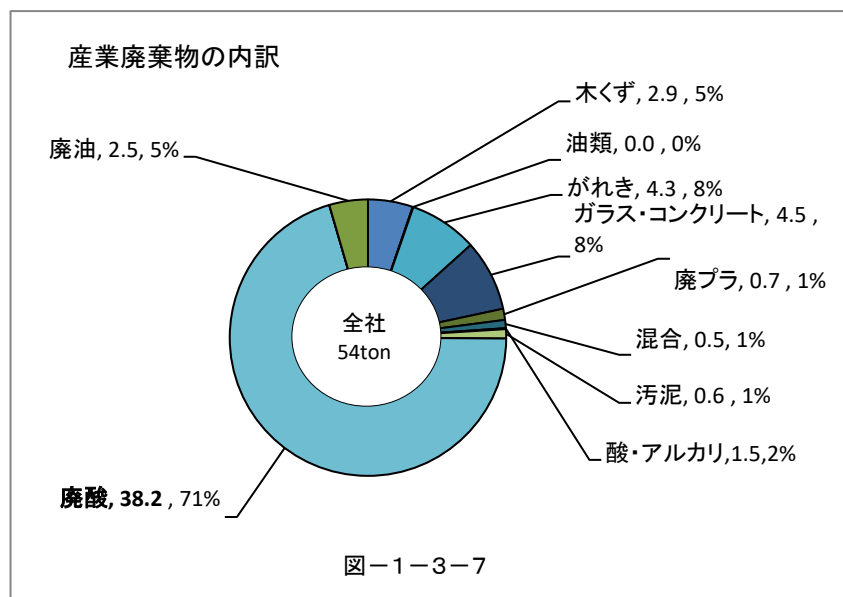
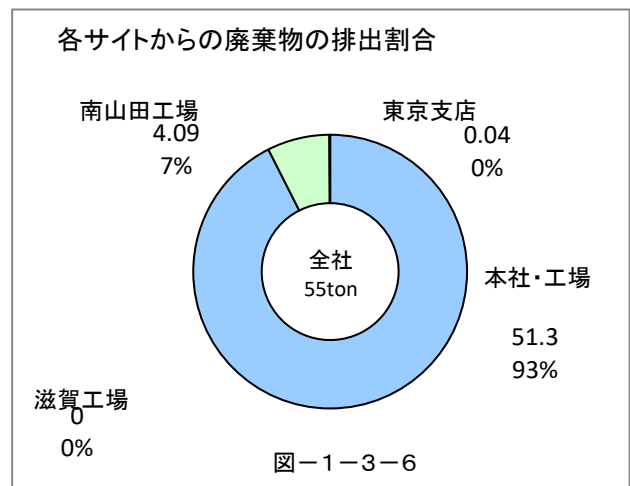
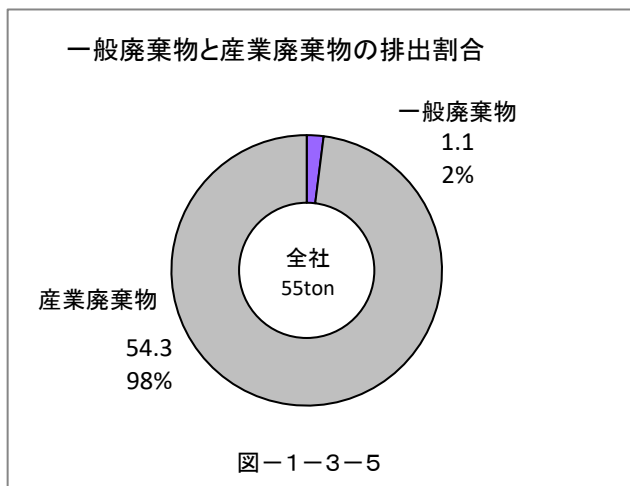
1. 主な環境負荷の実績

(3) 廃棄物排出量

全社における一般廃棄物と産業廃棄物の排出割合を【図-1-3-5】に、各サイトごとの一般廃棄物と産業廃棄物の合計排出量を【図-1-3-6】に示します。

廃棄物総排出量の約98%は産業廃棄物であり、また、廃棄物総排出量の約90%は本社・工場から排出されています。

全社から排出される産業廃棄物の内訳を【図-1-3-7】に示します。産業廃棄物の約70%が廃酸で、本社・工場で作成するステンレス製機器の洗浄工程より洗浄廃液として排出され、その99.8%は水です。



2. 環境経営目標及びその実績

2-1. 本社・工場

当社では、主な環境負荷の大半を排出する本社・工場を、環境側面における最重要サイトと位置付け、2008年1月より環境活動に取り組んでいます。本社・工場では、【表-2-1】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。

【表-2-1】 本社工場の環境経営目標及びその実績 / 今後の目標

項目	年度	(基準年度) 基準値	2021年 (2021年5月~2022年4月)		2022年 目標	2023年 目標
			目標	実績		
CO ₂ 削減 ^{※1} [電力]	ton-CO ₂	(2006年) 325	△24% 246.8	△26.1% 240.2	△25% 243.6	△25% 243.6
[自動車燃料]	ton-CO ₂	(2006年) 29.9	△12% 26.3	△45.0% 16.4	△12% 26.3	△12% 26.3
一般廃棄物削減	kg	(2009年) 3,886	△58% 1,632	△82.4% 684	△60% 1,554	△62% 1,477
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 5,257	△10% 4,731	△41.1% 3,097	△15% 4,468	△16% 4,416
産業廃棄物削減 [廃酸(酸洗浄廃液)]	ton	(2006年) 70.7	△20% 56.5	△46.5% 37.8	△20% 56.5	△20% 56.5
[廃プラスチック]	kg	(2013年換算値) 1,135	△10% 1,022	△62.7% 424	△11% 1,010	△12% 999
節水	m ³	(2007年) 12,545	△25% 9,409	△5.4% 11,868	△25% 9,409	△25% 9,409
化学物質使用量の削減 ^{※2}	L	(2009年) 240→0達成	使用量削減から管理とします		使用量削減から管理とします	
製品における環境配慮の促進 環境保全型設備・機器の受注件数 ^{※3}	-	-	10件	7件	10件	10件
グリーン購入			都度実施			

※1 本社・工場では、総排出量の86%が電力、7%が自動車燃料(ガソリン+軽油)につき、これらについて削減目標を設定している。

※2 当社には、化学物質を原料とする製品はない。2018年度に代替薬品へ切り替え完了。

※3 例えば、溶剤回収装置や脱臭装置のような環境設備、機器の受注であり、生産設備の省エネ仕様、環境配慮・対策の実施数含まない。

2-2. 南山田工場

本社・工場に次いで環境負荷の大きい南山田工場では、2010年1月より環境活動に取り組んでいます。

【表-2-2】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。

【表-2-2】 南山田工場の環境目標及びその実績 / 今後の目標

項目	年度	(基準年度) 基準値	2021年 (2021年5月~2022年4月)		2022年 目標	2023年 目標
			目標	実績		
CO ₂ 削減 [電力]	ton-CO ₂	(2008年) 77.7	△36% 49.7	△60% 31.0	△37% 49.0	△38% 48.2
[電力2]	ton-CO ₂	(2013年換算値) 65.4	△2% 64.1	△20% 52.4	△2% 64.1	△2% 64.1
[自動車燃料]	ton-CO ₂	(2008年) 6.3	△3% 6.1	△41% 3.8	△3.5% 6.1	△4% 6.1
[都市ガス]	ton-CO ₂	(2010年) 146.0	△20% 117.0	△64% 52.2	△24% 111.3	△28% 105.5
一般廃棄物削減	kg	(2011年) 775	△37% 488	△50% 387	△38% 481	△39% 473
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 301	△18.5% 245	△38% 188	△18.5% 245	△19% 244
産業廃棄物削減 [廃プラスチック]	kg	(2011年) 48.3	△9.5% 43.7	△95% 2.0	△10% 43.4	△10% 43.4
[酸洗浄廃液 ^{※1}]	t	(2011年) 166.3	△1.5% 164	△34% 109	△1.5% 164	△1.5% 164
[混合産業廃棄物]	kg	(2010年 ^{※2}) 702	△2% 688	△26% 520	△2% 688	△2% 688
節水	m ³	(2008年) 1,500	△24% 1,140	△50% 754	△25% 1,125	△26% 1,110
化学物質管理の徹底		使用状況と保管のチェック	使用溶剤の見直し			
製品における環境配慮の促進		梱包・包装簡素化への取組				

※1 酸洗浄廃液は社内施設で無害化処理しており、最終的には汚泥が産業廃棄物となる。汚泥としては、約1000分の1程度である。

※2 2010年度基準値は、実績値の是正により算出
日本化学機械製造株式会社

3. 環境経営活動の結果と評価、次年度の取組

3-1. 本社・工場

目標達成率 80% (10項目中 2項目未達)

主な取組み計画		達成状況		評価(結果と今後の取組み)
二酸化炭素排出量削減	電力の削減 ・不要照明の消灯 ・空調設備の点検 ・デマンド監視システム運用 ・待機電力の削減 ・設備の空運転削減 ・クール/ウォームヒズ推進 ・太陽光発電の安定運転 ・省エネ家電・電気機器への更新 ・エレベーターの使用を控える(新社屋) ・節電の徹底/新社屋比較	基準値	324.8 ton-CO ₂	○ 目標達成 今期の電力使用量は基準年比26%減となり、期初の目標とした24%減を2ポイント上回る減少が達成できた。コロナ禍においても電力使用量は基準年を毎月下回っており、日々の節電意識が定着してきているものと理解できる。特に来年度は夏場の電力不足が危惧されるとの報道もある中、熱中症対策も充分気を付けながら、引き続き節電を意識しながら健康と環境の両立を果たして行きたい。
		目標値	246.8 ton-CO ₂	
		削減比	-24.0%	
		実績値	240.2 ton-CO ₂	
		削減比	-26.0%	
		-	-	
		-	-	
		-	-	
		-	-	
		-	-	
2	自動車燃料の削減 ・エコドライブ運動展開 ・車両定期点検の実施 ・公共機関の利用促進 ・カーナビの有効活用 ・ハイブリッド車への更新	基準値	29.9 ton-CO ₂	◎ 大幅目標達成 基準年比45%減で、今期も目標を大きく上回る実績が残せた。コロナ禍で、キャンペーン活動が実施できていないこともあるが、エコドライブの意識が定着したとみられる。今後もエコドライブで安全と環境の両輪を廻して行きたい。
		目標値	26.3 ton-CO ₂	
		削減比	-12.0%	
		実績値	16.4 ton-CO ₂	
		削減比	-45.2%	
		-	-	
1	一般廃棄物の削減とリサイクルの促進 ・分別回収促進 ・消耗品等適正保管・使用の励行 ・機密文書の再生処理化 ・部内個人ゴミ箱の削減	基準値	3,886 kg	◎ 大幅目標達成 今期も基準年比削減率目標を上回る82%の削減率の実績を残せた。一般廃棄物の削減には日々、廃棄物を出さない、減らす工夫の賜物と思われる。その意味で削減意識が浸透していると理解できる。今後も継続した活動を展開する。
		目標値	1,632 kg	
		削減比	-58.0%	
		実績値	684	
		削減比	-82.4%	
		-	-	
2	コピー紙の使用量削減 ・再生紙利用の明示化 ・プロジェクターによるペーパーレス化 ・スキャナー・PDFの有効利用 ・両面印刷の推進	基準値	5,257 kg	◎ 大幅目標達成 ペーパーレス化を全社で展開し、基準年度比41%の削減を達成できた。引き続きペーパーレス化を推進するとともに、電子データの活用を促していく。
		目標値	4,731 kg	
		削減比	-10%	
		実績値	3,097 kg	
		削減比	-41.1%	
		-	-	
3	廃プラスチック ・分別回収によるリサイクル化促進 ・使い捨て製品の使用や購入を抑制 ・溶接棒包装のリサイクル化 ・業務外PETボトル廃棄禁止	基準値	1,135 kg	◎ 大幅目標達成 日々の廃プラ発生抑止活動により、基準年度比62%削減を達成できた。廃プラは出さない、減らす工夫を引き続き行うことで継続して削減して行く。
		目標値	1,022 kg	
		削減比	-10%	
		実績値	424 kg	
		削減比	-62.7%	
		-	-	

評価 ◎:大幅目標達成(5%以上)、○:目標達成、△:若干目標未達(0.5%以下)、×:目標未達

3. 環境経営活動の結果と評価、次年度の取組

3-1. 本社・工場

目標達成率 80% (10項目中 2項目未達)

主な取組み計画		達成状況		評価(結果と今後の取組み)	
  	(続) 4	産業廃棄物の削減とリサイクルの促進 酸洗浄廃液の削減	基準値	70.7 ton	◎ 大幅目標達成 受注製品の仕様に大きく左右される中、今期も基準年度比46%の削減を達成できた。特に今期は酸洗場への設備投資も行い、作業・周辺環境も向上したので、今後さらに環境とコストダウンの両方への貢献が期待できる。
		・適正使用の励行(過剰使用の抑制)	目標値	56.5 ton	
		・酸洗浄対象機器の仕様見直	削減比	-20%	
		・酸洗廃液処理実施	実績値	37.8 ton	
		・廃液再利用法の検討	削減比	-46.5%	
			-	-	
 	節水 1	水道水・工業用水の削減	基準値	12,545 m ³	× 目標未達 工業用水においては目標削減率を達成できなかった。原因は老朽化した設備の故障によるものであり、その修理も終わり、更新も計画されていることから来期は削減目標を達成できると期待される。社内での節水意識の高揚促進を図り、使用量の削減に努める。
		・小まめな節水運動	目標値	9,409 m ³	
		・給水設備の保守点検	削減比	-25.0%	
		・配管の定期監視	実績値	11,868 m ³	
		・大量消費用途の改善	削減比	-5.4%	
		・テスト用水の再利用化計画			
	化学物質の削減・管理 1	化学物質の削減・管理	基準値	240→0達成 L	代替薬品への切替完了 お客様から提供されるテスト用試料の廃液は、都度返却する管理が徹底できた。また洗浄廃液についても管理が徹底できた。今後もできるだけ廃液は社内に残さないことを実践して行く。 当社には、化学物質を原料とする製品はない。機器の洗浄に用いる溶剤は、身体に影響の少ない代替薬品へ2018年度に切り替え完了。
		・化学物質管理者会議の設置と運営	目標値	0 L	
		・使用化学物質の把握・記録・管理			
		・パトロールの実施			
		・排水等の測定・監視			
		・漏えい事故時の対策・訓練実施			
		・汚染防止のための作業改善			
		・リスクアセスメントの実施を全社展開			
   	環境に資する製品 1	製品における環境配慮推進	拡販	受注数	× 目標未達 環境関連製品の受注件数は残念ながら目標に届かなかったが、受注額、内容面では意義のある案件も含まれており、ますますこの分野で当社の存在感を発揮できるものと考えられる。今後も提案型の営業を継続して環境関連製品の受注増を目指す。
		・『環境配慮スコア表』運用継続 (設計時、施工時における環境配慮)	目標値	10件	
		・省エネ設計推進	実績値	7件	
		・発明考案表彰の省エネ設計推奨			
		・環境機器の拡販			
 	グリーン購入 1	グリーン購入	都度実施 (品質マネジメントシステムと連動)		努力目標 1品目ずつではあるが、グリーン製品の調達品目を増やし、また事務消耗品の再利用の手段も増やすなど活動を推進した。
		・事務用品のグリーン調達			
		・購入先の環境への取組調査			

3. 環境経営活動の結果と評価、次年度の取組

3-2. 南山田工場

目標達成率 100% (10項目中 0項目未達)

主な取組み計画		達成状況		評価(結果と今後の取組み)
二酸化炭素排出量削減	1 電力の削減 ・節電活動展開の徹底 ・待機電力の削減 ・設備の空運転削減 ・照明器具の省エネ化	基準値	77.7 ton-CO ₂	◎ 大幅目標達成 LED照明の導入が有効的で、大きく削減できているが、感染症対策での活動制限も大きい。今後も、社員の節電意識向上のため継続して周知して行く。
		目標値	49.7 ton-CO ₂	
		削減比	-36%	
		実績値	31.0 ton-CO ₂	
		削減比	-60%	
	2 電力の削減2(真空乾燥炉) ・データの分析 ・達成手段検討	基準値	65.4 ton-CO ₂	◎ 大幅目標達成 生産本数に影響されるが、定期的に点検・整備を行い、適正な稼働に努める。
		目標値	64.1 ton-CO ₂	
		削減比	-2%	
		実績値	52.4 ton-CO ₂	
	3 自動車燃料の削減 ・エコドライブ運動の展開 ・乗り合わせ運動の展開(人・物) ・車輛定期点検の実施	基準値	6.3 ton-CO ₂	◎ 大幅目標達成 生産本数に影響されるが、滋賀工場への運搬効率、乗り合わせを考えて行動しており、その成果もある。
		目標値	6.1 ton-CO ₂	
		削減比	-3%	
実績値		3.8 ton-CO ₂		
3 都市ガスの削減 ・真空乾燥炉稼働燃費向上 (月初工程会議の徹底) ・ガスバーナー保守点検の実施 ・炉熱風出入りダクトデータ収集	基準値	146.0 ton-CO ₂	◎ 大幅目標達成 炉の細分化の改造工事が継続的に得られ、二酸化炭素の排出量は大幅に削減できた。今後も真空炉の独立稼働などの検討を進めていく。	
	目標値	117.0 ton-CO ₂		
	削減比	-20%		
	実績値	52.2 ton-CO ₂		
廃棄物排出量削減	1 一般廃棄物の削減とリサイクルの促進 ・分別回収の徹底 ・発泡スチロール・プラスチック分別回収徹底 ・リサイクル先の開拓	基準値	775 kg	◎ 大幅目標達成 リサイクルを強化し、目標を大幅達成できた。引き続き推進する。
		目標値	488 kg	
		削減比	-37%	
		実績値	387 kg	
	2 コピー紙の使用量削減 ・社内文書の裏面使用・両面コピーの徹底 ・再生紙利用の促進	基準値	301 kg	◎ 大幅目標達成 社員の意識向上により社内使用コピー用紙の裏紙使用、ミスプリント防止が促進されており、引き続き推進していく。
		目標値	245 kg	
		削減比	-19%	
		実績値	188 kg	
	3 廃プラスチック ・分別の徹底 ・リサイクルの徹底	基準値	48 kg	◎ 大幅目標達成 分別回収の徹底に努め、同じ廃棄物でも、リサイクルが可能な様に配慮した。3Sの際などは、事前に計画して目標を設定していく。
		目標値	44 kg	
		削減比	-10%	
		実績値	2.0 kg	
		削減比	-96%	

3. 環境経営活動の結果と評価、次年度の取組

3-2. 南山田工場

目標達成率 100% (10項目中 0項目未達)

主な取組み計画		達成状況		評価(結果と今後の取組み)
廃棄物 排出量 削減	4 酸洗浄廃液(管理指標) ・処理設備の保全・管理 * 全量が産業廃棄物ではなく、発生量を管理指標・削減目標としています。 * 酸洗浄廃液は社内設備で無害化処理し、最終的には汚泥が産業廃棄物となります。汚泥としては、1000分の1程度の量です。	基準値	166 t	◎ 大幅目標達成 酸洗浄廃液は、社内の排水処理設備にて処理後放流し、汚泥が産業廃棄物となる。 生産数・部品などの出荷に左右されるが、削減を図れるように監視して行く。
		目標値	164 t	
		削減比	-2%	
		実績値	109 t	
5	産業廃棄物(混合) ・集積場所の見直し ・分別回収によるリサイクル化促進	基準値	702 kg	◎ 大幅目標達成 今年度は大幅に目標達成できた。3Sの際などは、事前に計画して目標を設定していく。
		目標値	688 kg	
		削減比	-2%	
		実績値	520 kg	
節水	1 水道水・工業用水の削減 ・節水運動の呼びかけ ・溶接機冷却水設備の点検	基準値	1,500 m ³	◎ 大幅目標達成 洗浄作業後の水道の止め忘れ、漏れが無いようにホース、メーターの点検を推進して行く。
		目標値	1,140 m ³	
		削減比	-24%	
		実績値	754 m ³	
		削減比	-50%	

3-3. 東京支店

目標達成率 100% (2項目)

支店員5名の小さな所帯ですが、全サイトにおける環境活動の展開方針に基づき、廃棄物とコピー紙の削減を活動項目に設定して全員で取組み、高い削減率を達成、継続しています。
賃貸ビルオーナーさんのご意向で、LED照明となり、電力消費、CO₂排出も15~20%削減できました。

項目/主な取組み	基準年度	目標	実績	評価(結果と今後の取組み)
1 一般廃棄物削減 ・分別回収促進	(2009年) 213kg	△55% 95.9kg	△81.3% 40kg	◎ 大幅目標達成 リデュースの意識の継続向上
2 コピー紙の使用量削減 ・ペーパーレス化推進 ・両面印刷	(2010年) 227kg	△23% 175kg	△52.9% 107kg	◎ 大幅目標達成 ペーパーレス化推進の継続

3-4. 滋賀工場

滋賀工場としての従業員数は0ですが、南山田工場従業員が毎日の作業を兼ねて管理を行っており、支援と協力を得ながら、環境管理責任者が、環境側面での施設管理等を行ってきました。
この度、南山田工場近くに移転することとなりました。

滋賀工場の電気使用量の個別の測定器の設置により使用量の測定を行い、担当別に振り分けました。

①南山田工場所有の真空加熱炉の稼働。②一時的な開発機器等の実験等での使用。③空調、冷蔵庫、その共有部分の設備(シャッター、事務所)等

①は、約70%である事が把握でき、南山田工場分実績、排出量として報告しています。

また南山田工場分の負荷として取組を行っています。

②③は、滋賀工場分として把握していますが、削減目標は設定していません。

移転に伴い、今後②③としての使用はなくなります。

4. 活動事例 トピックス

活動の一部を写真でご紹介します。

【感染拡大防止と環境活動のバランス】

2020年に続き、2021年の夏も、感染症の拡大防止のため、冷房を付けたまま、窓、ドアを開けて換気をするという状況となりました。社員の生命・健康を最優先に考え、安全衛生、危機管理、事業継続そして環境、それぞれを両立し推進するため、夏季のユニフォーム(軽装:ポロシャツ、Tシャツ)を導入しました。

胸には、“Solution Creator”の刺繍が入っています。
*ソリューション・クリエイターの詳細は、P.5 SDGs宣言でご確認ください。



【SDGs推進チーム U-45 結成】

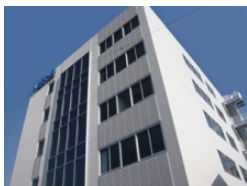


社長をプロジェクトオーナーとし、社内の色々な部門の若手社員で構成したチーム U-45 (2030年時点で、45歳以下)を結成しました。さらに情報収集など部門の窓口としてのサポートメンバーも選ばれています。環境事務局を始め、危機管理チーム、安全衛生委員会、関係部門が、協力してSDGsを進めていきます。



社内でSDGsの研修会

二酸化炭素削減



津波避難ビルに登録した新社屋



COOL & WARM BIZ 環境活動は日々の積み重ね



[プロジェクト常設で紙資料削減]



[照明スイッチの細分化]



[新社屋屋上に太陽光発電23KW増設]



[太陽光発電10KWを設置]



[デマンド監視装置導入]
電力使用の見える化



[受変電設備改修]トッパーナー機器へ



[人感センサー付照明の採用]
[事務所照明はLED採用]

省資源・地域貢献・生物多様化(緑化・保全)



[環境適合フォークリフト]



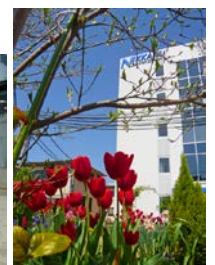
グリーン購入



エコドライブ [低燃費車に切り替え]



[緊急事態 全社防災避難訓練の実施]
AEDを常設しています



5. 環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

※東京支店は全て該当せず

適用される法規制	適用される施設、毎年必要な報告等	本社・工場	南山田工場	滋賀工場
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、産業廃棄物管理票交付等状況報告書	○	○	○
騒音・振動規制法	ペンディングマシン、空気圧縮機、送風機、機械プレス等	○	○	該当せず
消防法	少量危険物取扱所、屋内貯蔵所	○	○	該当せず
下水道法	酸による表面処理施設	○	○	該当せず
高圧ガス保安法	液化窒素貯槽、高圧ガス容器貯蔵所	○	○	該当せず
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則、粉じん障害防止規則に係る作業	○	○	該当せず
電気事業法	自家用電気工作物	○	○	○
PCB特別措置法	PCB含有コンデンサ(低濃度含有は環産産発第040217005号による)	該当せず	該当せず	該当せず

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

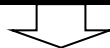
また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

6. 代表者の見直し

年度末に、社長に「代表者の見直し」として、環境管理責任者から【表-6】の各情報をインプットし、同表に記載するアウトプットがありました。アウトプットのあった各事項は、次年度活動に反映しています。

【表-6】代表者の見直し

インプット情報		
インプット事項	概要	管理責任者の提案等
システム運用に係る評価	環境への取組みは着実行されておりシステムは有効に機能している。	1. 環境経営方針 方針を継続したい。
環境経営目標・計画の達成状況	本レポート該当項目記載どおり	2. 環境経営目標・計画 感染拡大防止と環境のバランスを取りながら推進したい。
環境関連法規等の順守状況	本レポート該当項目記載どおり	
是正及び予防処置の状況	コンプレッサーが故障し、修理の間、以前使用していた水封式のものを使用したために、工業用水を大量に使用した。このことで、節水の目標は未達となった。老朽化に伴い、新規購入を計画している。	3. 実施体制 SDGsについて事業を通して貢献できることを推進していきたい。
内部監査の結果	例年4月にCSR監査の一環として内部監査を実施している。廃棄物の分類が曖昧になっている部署があるため、改善していく。	
周囲の変化の状況	CSVの観点からも本業での貢献重要。/SDGs(持続可能な開発目標)の理解、行動が求められている。	



代表者のアウトプット		
	代表者: 代表取締役社長 高橋 一雅	2022年6月20日
1. 環境経営方針	現在の方針を継続する。	
2. 環境経営目標・環境経営計画	現在の目標を継続、推進する。	
3. 実施体制	1) 品質、安全衛生、危機管理との連携 2) ESG、SDGsの推進	